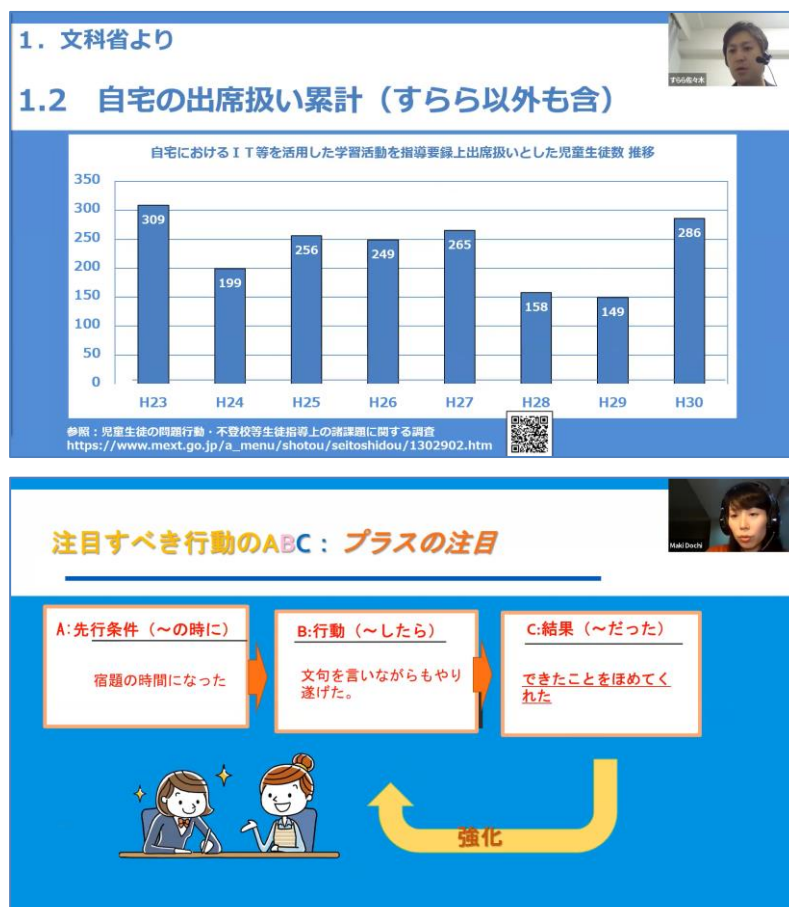


すららネット「子どもの発達支援室」主催 〈不登校生徒の出席扱い〉〈HSCの子の関わり方講座〉を 9月9日にWEB開催、220名の参加者のお悩みに回答

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：湯野川孝彦）は、9月9日に〈不登校生徒の出席扱い〉〈HSC*の子のかかわり方講座〉をWEB会議システムにて開催しました。小中学生のお子様を持つ保護者約220名へ、説明と質疑応答を行いました。



すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念とし、アダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」と「すららドリル」を、国内では約 1,400 校の塾、学校等に提供しています。全国の有名私立中高、大手塾での活用が広がる一方で、発達障がいや学習障がい、不登校、経済的困窮世帯を含む生徒に学習の機会を提供するなど日本の教育課題の解決を図ることで成長を続け代表的な EdTech スタートアップ企業として 2017 年に東証マザーズに上場しました。

AI×アダプティブラーニング教材「すらら」は小学校から高校までの国語、算数／数学、英語、理科、社会 5 教科の学習を、先生役のアニメーションキャラクターと一緒に、一人一人の理解度に合わせて進めることができるアダプティブな e ラーニング教材です。レクチャー機能、ドリル機能、テスト機能により、一人一人の習熟度に応じて理解→定着→活用の

NEWS RELEASE

サイクルを繰り返し、学習内容の定着をワンストップで実現できます。初めて学習する分野でも一人で学習を進めることができる特長を生かし、小・中・高校、学習塾をはじめ、放課後等デイサービス等においても活用が広がっています。

すららネット 子どもの発達支援室では、主に家庭学習で「すらら」を活用しているお子さまとその保護者を対象に、日々学習サポートを行っています。子どもの発達支援室宛には毎日、家庭学習における親子の関わりに関する問い合わせが寄せられています。学力を上げる方法は「すらら」で解決できるものの、勉強に気持ちを向かわせる方法は心理面から紐解く必要性を感じ、すららネットでは 2018 年より、社内臨床心理士を中心とし「子どもの気持ち」へ目を向けることに力を入れています。2019 年は親子の関わり方について行動分析学、教育学、認知行動療法を中心とした保護者向けサービスやイベントを開催し約 1,000 名の保護者が参加しました。今年新型コロナウイルス感染拡大による休校や、休校の影響による授業の遅れを取り戻すための夏休みの短縮など、子どもたちを取り巻く状況が例年と大きく異なる中、すららネットには保護者からの悩みが多数寄せられています。

第一部では、子どもの発達支援室長佐々木から、不登校生徒の出席扱いについて紹介しました。文部科学省が公表している「不登校児童生徒が自宅において ICT 等を活用した学習活動を行った場合の指導揚力上の出欠の取扱いについて」通達の説明や、出席扱いを認められた児童生徒数の推移、出席扱いになる 7 つの要点、具体的なアクションや流れについて説明し、事前に寄せられた質問への回答を行いました。平成 30 年度文部科学省調査によると、全国に約 16 万人いる不登校児童・生徒のうち、出席扱いを認められた児童・生徒は年間 286 人であり、出席扱いの制度は認知も活用も依然高いとは言えません。通っている学校とのコミュニケーションが必要であること、担任の先生が制度について知らない場合でも、まずは相談することが重要であると伝えました。

第二部では臨床心理士 道地より、HSC の子とのかかわり方について事例を交え紹介しました。HSC ならびに不安症のチェックリストについて、HSC であることをきっかけとして不安症の症状が出た子どもの事例、HSC や不安症に対する保護者や子ども本人の正しい認識・理解の重要性、認知行動療法の知見に基づく思春期の子どもとのかかわり方について紹介し、事前に寄せられた質問への回答を行いました。保護者から寄せられた悩みは多岐にわたり、ほめ方、不登校の子どもへの介入の仕方、カウンセリング専門機関の選び方、他者とのかかわり、睡眠について、勉強について、やる気や集中力について、漢字の読み書きが苦手な場合のアプローチ、ゲームとのかかわり方等について回答しました。大切なのは、学ぶ楽しさを知れるかどうかであるということ、学校での学びにとらわれず子ども自身に合った学習方法を見つけることだと強調し締めくくりました。

参加した保護者からは「現在の状況では、不登校への対応のニーズが増えていると思います。学校側の理解も進めてもらえるように、学校にかけ合ってみようと思います。」「この講座に参加して、同じような悩みを持っている方が沢山いて色々な話しが聞けて良かったです。先生からのアドバイスや HSC について聞いて参考になりました。」「不登校になり学業に関して悩むことが多く、また心のケアについても何か行っていけないかと気になっていました。我が家の項目が当てはまるかどうかと思いつつ参加しましたが、全体を通して気づかされることも多く、参加してよかったと思います。非常に有意義な時間を過ごすことができました。開催いただきありがとうございます。」といった感想が寄せられました。

すららネットは今後も、新しい学習体験を届ける事業活動と同時に「子どもの気持ち」へ目を向ける活動に引き続き注力し、子どもと保護者双方に向けたサポートを続けていきます。

NEWS RELEASE

*HSC：とても敏感な子ども

■イベント概要

テーマ：＜不登校生徒の出席扱い＞＜HSCの子の関わり方講座＞

日時：9月9日（水）19：00～21：00

対象：「すらら」で学習中または「すらら」学習を検討いただいた小中学生のお子さまを持つ保護者

講座内容：

＜不登校生徒の出席扱い＞

- ・出席扱いを満たす3つのポイント、出席カウントの要件、具体的なアクション

＜HSCの子のかかわり方講座＞

- ・HSCと不安症について、思春期の子どもとのかかわり方、学習方法の見つけ方

講師：

すららネット 子どもの発達支援室 室長 佐々木章太

すららネット 子どもの発達支援室 臨床心理士 道地真喜

■スピーカープロフィール

すららネット 子どもの発達支援室室長 佐々木章太

グロービス経営大学院 経営学修士

「すらら」家庭学習部門 事業責任者

家庭学習の保護者サポーター「すららコーチ」

統括マネージャー

すらら総合窓口として毎年500名以上の保護者から相談を受ける。

放課後等デイサービス¹の学習支援、自身も生徒指導を行う。

ペアレントトレーニング講師。KABC-II検査官。

子どもの発達科学研究所 学びの発達アテンダント

アドバンスコース受講終了。

KABC-IIアドバンスト講習会受講終了。



すららネット 子どもの発達支援室 臨床心理士 道地真喜

San Diego State University（アメリカ・カリフォルニア州）教育学修士

Alliant International School（アメリカ・カリフォルニア州）心理学博士

カリフォルニア州臨床心理士免許

カリフォルニア州での臨床経験約10年

ASD²のお子様向けのABAセラピー³、3歳から18歳を

対象とした心理検査、認知行動療法、プレイセラピー、大人の鬱、不安症のカウンセリングを主に実施。

アメリカでの臨床経験を活かし、(株)すららネットにて

発達障がい児への心理検査、カウンセリング、

保護者向けのペアトレーニングなどに従事。



¹ 障がいのある就学児向けの学童保育サービス。

² 自閉症スペクトラム・アスペルガーといった発達障がいの一種。

³ 応用行動分析学（ABA）を用いたセラピー。障がい児療育方法の一種。